尾形六郎兵衛の視点（下）

出羽海は羽黒発祥

相撲の大本流を行く相撲部屋が出羽海部屋であることはよく知られている。9人の横綱が誕生したが、部屋として最多記録でもある。その始祖、初代「出羽海」が羽黒地域出身。地元の名刹・玉川寺（ぎょくせんじ）に石碑がある。

初代の本名は叶野金蔵。江戸時代の1758年生まれ。17歳で江戸に出て力士になり、現役時代は出羽ノ海金蔵、その後出羽ノ海運右衛門を名乗った。

出羽海は現在11代目。元幕内の小城ノ花(53)が継いでいる。継承の過程で敬意が込められ「ノ」の字は外され「出羽海」になった。5代目の「角聖」と言われた横綱常陸山が部屋の勢力を大幅に伸ばし、今につながる。相撲界は年寄名跡「105」が代々継承され、先祖を尊重する精神は大きい。

初代の羽黒の実家では出羽海の先祖であることを何代か語り継いできたが、ごく親族内であり、世間的には知られていなかった。

石碑の完工式に招かれた千代の山と出羽海相談役。右は尾形（自著「六十年目の自画像」から）

そうした中で尾形にあつみ温泉の旅館主人から湯治客の先祖が「初代」であるとの連絡が入った。併せて大関まで出世した地元力士はその弟子との情報が入った。子孫同士が旅館で一緒になり、尾形の聞き取り調査で詳細が明らかになった。

喜びの相談役への連絡

それを当時の出羽海相談役（7代目、前協会理事長、元横綱常ノ花）に伝えた。

相談役に「金蔵こそ、我が家、我が部屋の初代に当たる人ですよ。出羽海というから多分山形か秋田かと思っていたが、やはり尾形さんの国の方だったのですね」と感謝されたことは協会・木戸御免の尾形にとって大きな名誉だった。

調べていくうちに、生誕200年であることも判明。地元で記念碑を建てる機運が盛り上がった。羽黒山に向かう大鳥居のそばという意見も沸き起こったが、実家の菩提寺で地元集落内にある玉川寺に納まった。

出身地は江戸時代までは出羽国田川郡国見村と呼ばれた。今は合併し鶴岡市となっている。

出身地不詳は誤記か

田川郡の「田河郡」が「国阿郡」と間違って書き写されたことで、相撲史家が惑わされ、出身地不詳が続いたようだった。

初代の弟子花頂山の石碑には出羽海が碑文を刻んだ（墓碑の下部）

今となると初代出羽海を通じた「庄内つながり」が何分か後押ししたのではないかと思ってしまう。

いずれにしても初代出羽海の石碑披露後、出羽海はご機嫌で、功が大きかった尾形らとあつみ温泉に向かった。ここには初代の弟子で大関まで昇進した花頂山（後に「市ノ上」に改名）の墓が熊野神社の境内にあり、参詣したのだった。当地では今も自慢の「鯛料理」に舌鼓を打った。

ちなみに出羽海は東京・谷中墓地に本名「山野辺家」の墓としてまつられているが、平成8（1996）年に58歳で亡くなった柏戸の墓もそこからわずか1分ほどの近さにある。これも何かの縁かもしれない。

尾形は庄内の相撲史を探求し、柏戸を応援した。親交があった横綱羽黒山一行の戦中の松根油取りに関しては羽黒の宿坊・宮田坊に展示がある。これに柏戸記念館を加えたら「庄内相撲史ツアー」ができるほど。これら全てに尾形は縁が深かったのだ。

＝敬称略＝

（富樫　嘉美）

温海には大関の碑が

長男は庄之助を書く

○…尾形の長男・昌夫(91)は商船会社勤めの後、鶴岡出身の第28代木村庄之助こと後藤悟に関して荘内日報に連載したものを「庄之助の行司人生」＝**写真**＝として刊行させた。出羽海部屋所属の名行司を父譲りの観察眼と筆力で書き表した。尾形の紹介で立浪部屋に入門、関取に昇進した花筏(79)＝本名三浦健＝は引退後、県出身の力士を江戸時代までさかのぼり発掘、紹介した功績は大きい。「のこった柏戸」の著作がある。

毎週火曜日付に掲載